第 二百四十一 章 · 冰雹过境

下午三点，天空突然变成了墨绿色。

没有预兆，没有乌云翻滚的过渡，就像有人把一块巨大的绿色滤镜盖在了整个天空上。紧接着，冰雹开始砸下来。

一开始是零星的几颗，大概跟鹅卵石差不多。再过两分钟，就变成了密密麻麻的冰块，砸在屋顶上的声音像机关枪扫射一样。

林晓雨在厨房里切着土豆丝，听到外面传来第一声闷响的时候，手顿了一下。

她放下菜刀，擦了擦手，走到窗户边。

窗外的菜园子里，刚才还长得很好的番茄苗，叶子被砸得东倒西歪。一个冰雹砸在隔壁王婶的晾衣绳上，把绳子砸断了半截。

她的手机响了。是王婶发来的语音：“小林，你们那边冰雹大不大？我这边砸得厉害，你们屋顶没事吧？”

林晓雨回了一个字：“大。”

发完这个字，她又补了一句：“我们这边也是。”

王婶的语音又来了：“你们屋顶结实吗？这么大的冰雹，能砸穿吗？”

林晓雨看了看天花板。这栋房子是三年前刚盖的，屋顶是钢筋混凝土的，外面还铺了一层防水卷材。理论上，砸穿的可能性很小。

但理论上，冰雹这么大，也不该下成这样。

她关掉手机，继续切土豆丝。

切到第三个土豆的时候，冰雹开始变小了。从密密麻麻变成零星几颗，再变成一阵一阵的间歇性轰炸，最后连轰炸都没了，只剩下雨水顺着屋檐滴下来的声音。

天空还是绿的，但绿色开始褪去，变成了灰白色。

林晓雨把切好的土豆丝装进盘子里，端到灶台上。

她推开后门，走到院子里。

脚下是一层厚厚的冰碴，踩上去发出清脆的碎裂声。

她弯腰捡了一块冰雹，大概有核桃大小，表面还没完全融化，透着一层浑浊的白。

她把冰雹放在手心里，看着它慢慢融化，水从指缝里流出来，带走了最后一点寒意。

她直起腰，环顾四周。

菜园子里，番茄苗东倒西歪，叶子被砸得千疮百孔。隔壁王婶的晾衣绳上，那截断掉的绳子还挂在墙上，另一端垂在地上，被冰碴冻住了。

她的手机又响了。是王婶发来的语音：“小林，你们那边冰雹大不大？我这边砸得厉害，你们屋顶没事吧？”

林晓雨回了一个字：“大。”

发完这个字，她又补了一句：“我们这边也是。”

王婶的语音又来了：“你们屋顶结实吗？这么大的冰雹，能砸穿吗？”

林晓雨看了看天花板。这栋房子是三年前刚盖的，屋顶是钢筋混凝土的，外面还铺了一层防水卷材。理论上，砸穿的可能性很小。

但理论上，冰雹这么大，也不该下成这样。

她关掉手机，继续切土豆丝。

切到第三个土豆的时候，冰雹开始变小了。从密密麻麻变成零星几颗，再变成一阵一阵的间歇性轰炸，最后连轰炸都没了，只剩下雨水顺着屋檐滴下来的声音。

天空还是绿的，但绿色开始褪去，变成了灰白色。

林晓雨把切好的土豆丝装进盘子里，端到灶台上。

她推开后门，走到院子里。

脚下是一层厚厚的冰碴，踩上去发出清脆的碎裂声。

她弯腰捡了一块冰雹，大概有核桃大小，表面还没完全融化，透着一层浑浊的白。

她把冰雹放在手心里，看着它慢慢融化，水从指缝里流出来，带走了最后一点寒意。

她直起腰，环顾四周。

菜园子里，番茄苗东倒西歪，叶子被砸得千疮百孔。隔壁王婶的晾衣绳上，那截断掉的绳子还挂在墙上，另一端垂在地上，被冰碴冻住了。

第 1000 章 ダンジョンの最深部

ダンジョンの最深部は、地下一万メートルを超えていた。

ルナ・ヴェルトは、ボロボロになった地図を広げて、現在の位置を確認した。

ここまで来るのに、三年かかった。

仲間は、途中で全員死んだ。

ルナは、一人で、ここまで来た。

理由は、ただ一つ。

母親を、生き返らせるためだ。

ルナの母親は、十年前、ダンジョンの中で、魔物に殺された。

ルナは、その日、誓った。

絶対に、母親を、取り戻す。

どんな手を使っても、どんな犠牲を払っても、母親を、取り戻す。

ルナは、ダンジョンの最深部に、古代の魔法が、眠っていると、聞いた。

死者を、蘇らせる、禁忌の魔法。

ルナは、その魔法を、使うつもりだった。

ルナは、最深部の、扉の前に、立った。

扉は、巨大な、鉄の、扉だった。

扉には、古代文字が、刻まれていた。

ルナは、古代文字を、読んだ。

「この扉を、開けるものは、命を、捧げよ。」

ルナは、ためらわなかった。

ルナは、自分の、命を、捧げる、覚悟を、決めていた。

ルナは、扉に、手を、当てた。

扉が、開いた。

ルナは、中に、入った。

中は、広い、ドーム状の、空間だった。

ドームの、中央に、祭壇が、あった。

祭壇の、上に、一人の、女性が、横たわっていた。

ルナの、母親だった。

ルナは、母親の、顔を、見た。

母親は、死んでいた。

ルナは、母親の、胸に、耳を、当てた。

心臓は、動いていなかった。

ルナは、母親の、手を、握った。

冷たい、手だった。

ルナは、涙を、流した。

ルナは、古代の魔法を、使った。

ルナは、呪文を、唱えた。

ルナは、呪文を、唱えた。

ルナは、呪文を、唱えた。

何も、起こらなかった。

ルナは、絶望した。

ルナは、膝を、ついた。

ルナは、泣いた。

ルナは、泣いた。

ルナは、泣いた。

ルナは、母親の、遺体を、抱いた。

ルナは、母親の、遺体を、抱いて、泣いた。

ルナは、泣いて、泣いて、泣いて、泣いた。

ルナは、泣き、疲れて、眠った。

ルナは、夢を、見た。

ルナは、夢の、中で、母親に、会った。

母親は、ルナに、言った。

「ルナ、お、前は、生き、て、い、る。」

ルナは、目を、覚ました。

ルナは、母親の、言葉を、思い、出した。

ルナは、生きている。

ルナは、生きている。

ルナは、生きている

附 录